



## 路



副会長 野村 哲

皆様、いかがお過ごしでしょうか。わたくしは高齢者の仲間入りをしましたので、ワクチンを早めに打てるグループではありますが、コロナ禍の中、心配しながらの日々です。皆様もいろいろとご心配のことだと存じます。立川市内の保育所も数園感染が確認されましたが、幸い大きなクラスターとはならずホッとしております。どんなに対策をしても防ぐことは難しく、誰がいつ感染しても不思議ではありません。粛々と対策をして子どもたちの元気な姿を守っていきたいと思います。子どもたちと毎日共に過ごす直接処遇の保育士さんたちには心より感謝です。

コロナ禍でほとんどの会議や会合が中止され、出かける機会がなくなったのに、何故か余裕がないのはどうゆう訳でしょうか。知り合いの産業医の先生も「患者は少ないが何か気忙しいよね」と言っておりましたが、夜は暇なのでギターを嗜んでいるそうです。テレビっ子だった私は、大人になったらテレビを存分に観て過ごそうと思っていました。しかし、いざ夜に時間ができてテレビを点けてみると、つまらない番組ばかりです。読まずにあった本も読んでみましたが、いつの間にか寝てしまいます。「コロナよ、キミのおかげで夜の過ごし方がとても難しい、いったいどうしてくれるの」と一人で文句を言いながら自粛の日々を過ごしています。自粛のお陰か、自宅で簡単に作れる最高のつまみを覚えました。昆布で締めたブリを千枚漬で巻いてオリーブオイルを垂らしたら出来上がり。お気に入りの千葉県八街のバタピーと交互にお酒が進みます。

先日、卒園間近の子どもたちに「パンドラの箱」のお話をしました。その数日後、ある子に「邪悪なものを閉じ込めた箱なのに何故みんなの役に立つものが入っていたの？」と聞かれました。「答えは自らの中にあるよ」と申しましたが、納得していない様子でした。いつか理解してコロナの様な「災い」にあっても「希望」を見出してほしいと願います。

路は、険しく厳しく感じますが、昔の方々からすれば、今はとても幸福で平安な世だろうと言われてしまいます。確かにその通りだと思います。平安な幸福な時を満喫し、平坦ながらも険しいと感じる路を穏やかに歩んで行きたいと思います。